

山中現 (やまなか・げん) 先生に

おたより しつもん?

何度見ても、絵の世界にひきこまれとても居心地がよいです。《白の場所》では白のまわりのモノたちはハートに見えたりでこぼこに見えたりしても、白を受け入れているように見えます。世界中がこのような優しい世界であってほしいと感じました。先生はどんな気持ちに心動かされ、描き始めるのですか? (JUNさん)

ひとつの感情ではないように思います。しかしそのことが絵を描くこととつながっているのかどうか自分ではわかりません。(山中先生)

《はなれる黄色》。黄色のかわいらしさについ笑みがこぼれました。そして何故離れたのかな…と。形の違い?と思うと笑いどころではなく、奥深さを感じています。何か意味がありますか?

《はなれる黄色》、題名はあとからつけました。特定の意味は考えませんでした。ただはなれた黄色に何かを感じ作りました。見る人がそこに意味を感じることもあるだろうと思います。(山中先生)

どこか哲学的で、詩的で、一枚の絵を見ているだけなのに、物語を感じました。いつも美術を鑑賞しているだけの身ですが、昔から詩が好きで、詩×作品にチャレンジしたい!と思っていたので、作品を見てチャレンジしてみようという気持ちになりました。ありがとうございます。

ゆたかなひと時でした。色のかさなり素直な美しさ、空間の余白…。どれも美しく癒されました。

用事で喜多方より参りました。我が家にも作品をかせさせてもらっております。ご活躍嬉しいです。

《大地の月》一家にあります。いつみてもステキです。アートギャラリーミュージアムにも行きました。(ギャラリー毬苗さん)

《星の木》がとても好きです。うまく言えないけれど、素敵だなと思いました。

ほんの少しのカタチを借りて、表現したいのは(「カタチ」と「カゲ」のイラストの間に→)この空気なんだな、と今日2回目に来て思いました。とても謙虚な気持ちと、大いなるものへの敬意の気持ち、言葉にならないくらいの…だから版画という表現、画家、造形家という人生なのだと思います。言葉にできませんが伝わるものはたくさんあります。(田部井妙子さん)